

「救命救急の実際」研修



新任者66名を対象に、「救命救急の実際～一時救命処置（BLS）と体外式自動除細動器（AED）～」の研修を行いました。研修者は事前に気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫（CPR）、体外式自動除細動器（AED）に関するDVDを視聴し、知識を習得したうえで実技演習を行いました。実技演習では、救命救急センター看護師が進行を担当し、心肺蘇生の正しい手順を学びました。心停止の患者は一刻を争うため、いかに早くBLSを開始するかが重要であること、そのためにはチームワークが要になることを理解していました。

※今年度はCOVID-19の感染防止のため二人の研修者に一人のインストラクターが付く少人数制とし、かつ会場を分散し、感染対策を徹底したうえで研修を実施しました。

Zoomによる中継で他会場の様子も把握しながら演習を進行しました。



【気道の確保・人工呼吸】適切なバックバルブマスクの当て方に難しさを感じていましたが、インストラクターによるデモンストレーションで理解を深めることができました。



【胸骨圧迫（CPR）】自分が思っているよりも深く圧迫しないと確実な胸骨圧迫とはならないことを実体験していました。手の置き場所、角度など丁寧な助言を受けていました。



【体外式自動除細動器（AED）】AEDの使用にあたり水による影響、貼付剤など注意点があることを理解していました。また正しい使用手順を学ぶことができました。



★新人教育に関して、何かご意見やご要望などありましたらお気軽にご連絡ください。
看護職キャリア支援 教育担当